

トランプ政権、ベネズエラ軍の一部の反政府派とクーデター協議

今月 8 日付のニューヨーク・タイムズ紙は、「トランプ政権、ベネズエラ軍の反政府分子とクーデターについて、秘密裏に数度にわたり話し合う」というタイトルで、マドゥーロ政権の打倒計画について報道しました。同報道は、大要次の通りです。

ベネズエラ軍の一部は、オバマ政権の時、米国政府と直接接触しようとしたが、拒否された。しかし、昨年 8 月トランプ大統領は、ベネズエラにたいして軍事オプションがあることを発表*。ベネズエラ軍部内の反対派を鼓舞した。11 名の現役・退役米国政府高官と、ベネズエラ軍元司令官の間で、昨年秋から今年まで続いた。米国政府高官とベネズエラ軍元司令官によれば、米大統領府は、民主主義の復活を望むすべての勢力との対話が必要であり、そのひとつとして行ったものである。

*筆者註：17.08.11 トランプ大統領が「ベネズエラは、悲惨な状態だ、悲惨で危険だ。ベネズエラに対してはいろいろな選択肢がある。隣国である。遠い場所だと多くの問題があるが、ベネズエラは遠くにはない。人々は困っており、死者が出ている。ベネズエラ対策は、必要なら軍事的選択肢も否定しない」と述べる。さらに 1 時間後、ホワイトハウスは、声明を発表し、「ニコラス・マドゥーロ（敬称なし）からトランプ大統領に電話があった。トランプ政権は、発足以来、マドゥーロ（敬称なし）に、憲法の尊重、自由・公正な選挙の実施、政治囚の釈放、人権侵害の中止を呼びかけた。しかるにマドゥーロ政権は独裁の道を選択した。トランプ大統領は、ベネズエラで民主主義が回復したあかつきにベネズエラの指導者と対話を行う」と述べる。

会議に参加したこの元軍司令官は、よもや民主的な人物とは考えられない。彼自身、米国政府によって制裁を科されているベネズエラの腐敗官僚リストに入っている人物である。その他のベネズエラの治安機関の反政府メンバーも反体制派の人々を拷問したり、政治犯を逮捕拘留したり、麻薬取引、FARC（コロンビア革命軍）との協力などの重大な罪で米政府により告発されているいかがわしい人物である。

当初、トランプ政権は、CIA（中央情報局）要員のフアン・クルスをベネズエラ派遣することを考えたが、慎重に考えて外交官を派遣することにした。2017 年暮れ、外交官は、意見を聞くために反政府派軍部との会議に出席した。しかし、ベネズエラ側は、詳細で具体的な案はなく、米国側が指示を出すこと期待していた。今年初め、米国側は、ベネズエラ側に、明確な反乱支援を約束しなかったが、ベネズエラ側は、米国は計画を承認したと理解した。

最終的に米国高官側は、ベネズエラの軍部反対者を支援しないことを決定し、クーデター計画は、とん挫した。ベネズエラ側は、臨時政府樹立計画を進める間に米国と通信するため、暗号通信機の供与を要請したが、米側は供給を拒否した。ベネズエラ国内では、反政府軍部関係者が逮捕され、計画は進まなかった。元司令官によれば、3つのグループの軍人がこの計画に参加した。ある反体制軍人グループが海外の米国大使館と接触、初め米側は半信半疑

だったが、ベネズエラで人道危機が深まっていったので、これを受け入れた。

元司令官は、彼は一度も米国の干渉、共同作戦も要請しなかったと。昨年7月憲政議会が設立した際に計画を実行しようと考えていた。しかし、大量虐殺となると考え実行せず。今年3月20日に計画の実施を考えたが、陰謀のうわさが流れて、実行せず。作戦は、マドゥーロ及び政権幹部を一斉に逮捕するというもの。そのために秘密の通信機械が必要と主張した。しかし、米国から断られた。

米国政府は、ベネズエラの状況は、米州の安全保障と民主主義にとって脅威であると述べ、トランプ政権は、ヨーロッパ、アジア、米州の同盟国と協同してマドゥーロ政権が民主主義を復活させるように引き続き努力すると指摘した。

2月1日ティラーソン国務長官は、軍事クーデターが起きる可能性を示唆*。数日後、フロリダ選出の上院議員マルコ・ルビオ、軍内部の反マドゥーロ勢力が大統領を打倒するように鼓舞した。

*筆者註：2月1日、ティラーソン米国務長官は、南米歴訪を前に、テキサスで「ベネズエラが自由、公正、民主主義選挙を行うよう要請する。ベネズエラ国民は飢餓に陥り、病気にかかっても治療を受けられない。ベネズエラ国民は飢餓と病気で死にかかっている。ベネズエラや中南米諸国の歴史をひもとくと、どうしようもない状態に、しばしば軍部が対処してきた。マドゥーロ氏は、キューバのビーチ沿いにすてきな農園を用意してくれる友人がいるに違いない。そこで良い人生を送ることができる」と冗談めかしながら亡命の可能性にまで言及しました（US Department of State HP）。さすがにこのクーデターを示唆する発言には、中南米諸国から非難が続出しました。

翌2日ティラーソン国務長官は、メキシコのビデガライ外相との共同記者会見で「マドゥーロ政権が自由、開放された、信頼できる、民主主義的な選挙に戻るよう要求する」と述べましたが、ビデガライ外相は、「内部からであれ外部からであれ、ベネズエラの件で暴力を伴う決定にくみすることはない」と、全面的にはティラーソン国務長官の態度に組みませんでした。また、この会談では、ベネズエラの石油取引の禁止とベネズエラに代わってのカリブ海諸国への石油の輸出も話しあわれました。続いて4日同長官は、アルゼンチンで、「ベネズエラへの石油製品禁輸を検討している、米州サミットにベネズエラを呼ぶかどうかはホスト国のペルーが決めることだが、それを尊重する」と記者会見で述べ、暗にベネズエラの出席を好まぬ姿勢を示唆しました（US Department of State HP）。さらにベネズエラとの石油取引の禁止の可能性について初めて言及しました。

クルスは、本年4月、マドゥーロ大統領を心神喪失者と述べ、軍部に決起を呼びかけた。米国政府、ベネズエラ軍部は麻薬取引など全般的に腐敗しており、元国務省高官、現メキシコ大使のジェイコブソンは、軍部の一部と非公式の関係を樹立する価値があると考えている。民主主義のためには、腐敗しても利用価値があるからである。

昨年の陰謀計画では、軍部内で 300 人から 400 人が加担したが、その後逮捕され、現在は 150 人程度になっている。

ニューヨーク・タイムズ紙の報道は、以上ですが、米国政府の行動は、ベネズエラの主権、民族自決権を無視した干渉行為です。このスクープを報道したことは評価されますが、ニューヨーク・タイムズ紙の報道で目につくことは、いつものことですが、ベネズエラのマドゥーロ政権は、権威主義を強め、国際的には益々孤立していると述べつつ、この行為が、国際法、国連憲章に違反する、ベネズエラの主権を無視した内政干渉であるという指摘がまったくないことです。

9 日、ベネズエラのアレアサ外相は、米政府の行動は、ベネズエラの主権を無視した内政干渉であると強く抗議しました。

(2019 年 9 月 10 日 新藤通弘)